

第 17 回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時：令和 8 年 3 月 6 日(金) 13:00～15:00

場 所：静岡パルシェ 7 階第 2 会議室

出席者： 高知工科大学 佐藤教授
名古屋大学大学院 水谷教授 (WEB)
静岡大学 原田准教授
国土技術政策総合研究所 柴田海岸研究室長
静岡県交通基盤部 山田河川砂防局長
中部地方整備局河川部 加納河川調査官
静岡河川事務所 川嶋事務所長

< 議事 >

○資料 1：駿河海岸直轄海岸保全施設整備事業 説明資料

- ・必要養浜量が 23 万 m^3 から 40 万 m^3 に見直された点について、年間か令和 16 年までの全量か確認したい。
⇒令和 16 年度までの全体予定量である。目標浜幅を確保しても越波する箇所があったため、現状の打ち上げ高が堤防天端高を超えないよう養浜量を見直した。
- ・残りが 40 万 m^3 ならば全体計画は 63 万 m^3 となるため、誤解のない表現にすべきである。
- ・「養浜必要箇所」という表記について、必要浜幅を割り込んだ所か、越波した所か、表現の考え方を教えてほしい。
⇒一律の目標浜幅ではなく、越波する箇所に対して養浜を進める計画に改めたため、越波する箇所で養浜を実施するという意味である。
- ・海面が上昇する時代に「目標浜幅」という表現はそぐわないため、「目安浜幅」などの表現を検討してはどうか。

○資料 2：漂砂管理計画（案）について

- ・現行計画の「年 11.3 万 m^3 」と今回示された「40 万 m^3 」の整合性を確認したい。大井川の河道掘削土砂等も含まれているか。
⇒11.3 万 m^3 には国の養浜、県の大井川港におけるサンドバイパス、河道掘削の土砂の活用が含まれており、これらは 40 万 m^3 の計画にも含まれる。
- ・1965～75 年頃の急激な侵食について、大井川等での「砂利採取」との関連はないか。土砂管理計画等のデータと照らし合わせて状況を把握してほしい。
⇒侵食については、大井川での掘削時期と重なるため、土砂管理計画等のデータとの関連性を精査する。
- ・大まかに川からの土砂と海岸での挙動を押さえ、漂砂の全体像を把握することが重要。モデルについては、実測と計算で合っていないように見える箇所もあるが、全体的に再現性は向上したと思う。

- ・年平均の波を与えてこれだけ合うのは、モデルがすごいのか、異常波浪が少ないからか。
⇒長期予測が目的のため、直前に大きなインパクト(台風等)が含まれない時期を選んでいる。
- ・モデルが妥当であるとする評価点として、テラス形状と汀線以外にもチェックすべき項目はあるのか。今回の条件でたまたまそうなったのか、一般的に注意すべき点なのかをまとめておくと今後の参考になる。
⇒今後、川尻工区での離岸堤整備の必要性を検討する際など、どのような指標で評価・チューニングしていくか引き続き検討する。
- ・河口域での底質調査 については、開口部の移動と粒径の関係を踏まえて考察の内容を確認してほしい。

○資料 3：モニタリングの実施状況について

- ・CCTV 画像の中のピクセル位置と、平面的な現地座標とのキャリブレーションはどうやっているか。
⇒事前に現地で基準点(評定点)を設置し、それと比較して平面座標に変換している。
- ・CCTV 解析の精度向上について、潮位と波浪のどちらの補正がより効いたのか。
⇒潮位だけでなく、打ち上げ高も補正において計算している。
- ・3m 分解能の衛星画像が無料で高頻度に手に入る時代であるため、一度検討した手法も再度見直す技術力を持ってほしい。また、総合土砂管理につながるもうワンステップ踏み込んだ分析を行ってほしい。

○資料 4：今後の予定

- ・静岡県が今年度中に予定されている海岸保全基本計画の変更についても追記すべきではないか。
⇒反映して修正する。

以上